

時代の
最先端

イクメン インタビュ

イクボスからも一言!

—「いよいよ明日から、育休入ります！」

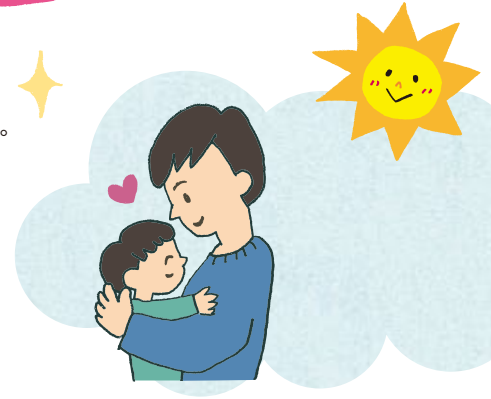
昨今、共働き家庭の増加に伴い、男性の育児休業（以下育休）取得は増加傾向にあります。各企業が取り組みを進める中、当社は2015年、男性社員の育児参加による視野の拡大や、家族との絆を深めてもらうことによる長期的な視点でのパフォーマンス向上、周囲への理解促進などを目的に、「男性の育休取得率100%」という目標を掲げました。

現在、当社社員の対象者のうち、半数以上が育休を取得しているって、ご存じでしたか？
育休取得のきっかけは？育休を取って、何が違って、何を得たのか。

そもそもイクメンとは…。実際に育休を取得し、仕事に育児に日々奔走している

3人のお父さんの本音をインタビューし、彼らを支援する上司（イクボス）にも一言メッセージをいただきました。

※東急電鉄の男性育休取得率…51.6%（2017年度実績）
（政府取得目標…2020年までに13%）



イクメン vol.1

鉄道事業本部 運転車両部 長津田電車区
運転士 大矢 隆広さん

PROFILE

1999年入社。菊名駅・駅係員、長津田車掌区、運転士養成学校を経て、長津田電車区にて運転士として勤務。4・2・0歳、3人の男兄弟のお父さん。

長津田電車区、男性育休取得第一号

2018年10月、三男が離乳食を始める時期に、1ヶ月の育休を取得しました。これが3回目の取得で、1回目は次男出産に伴い4か月間、2回目は三男が生まれるタイミングで3週間取得しています。実は長津田電車区での男性育休取得は私が初めてだったのですが、長男出産の時に育休を取得せず、妻が精神的・体力的に大変な様子を見ていたので、仕事をお休みさせていただくことにしました。

妻への感謝の気持ち

育休取得中は、私が朝食を作って、妻がその間に洗濯機を回して、一緒にごはんを食べて…という、幸せですが変化の少ない日常の繰り返しでした。仕事をしていると、社会の役に立っている実感を得ることができませんが、専業主婦である妻はずっと育児をしていて、子どものことが頭から離れる時間がありません。妻の精神的な負担がよく分かり、同時に感謝の感情が芽生えました。

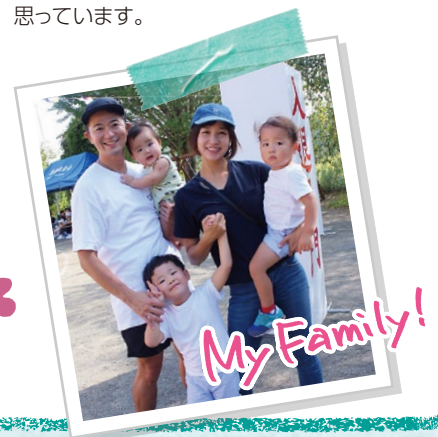
自分を見つめ直す機会に

育休中、家族と一緒に過ごししながら、今後の自分自身や家族の人生設計などについて考える時間もとることができました。自分を見つめ直す機会にもなりますし、奥様もきっと喜んでくれます。家族・職場への感謝の気持ちを忘れず、育休を取得して、新たな気持ちで仕事に向かえる人が増えるといいな、と思っています。

イクボスからの一言! /

長津田電車区 区長 宗像 清一さん

男性が育休を取得し、いい家庭環境を築くことは、職場での良い働きにも繋がると思います。大矢さんにも、これからどんどん活躍してほしいと思っています。私自身も、区員にとって風通しの良い職場になるよう、常に心がけていきたいと考えています。





イクメン vol.2

財務戦略室 主計部 連結IR課
主事 猿田一秋さん



PROFILE

2007年入社。東急ホテルズ出向、都市開発事業部を経て、財務戦略室にてIR業務を担当。
0歳の男の子のお父さん。

周りの環境に恵まれていた

あまり器用なタイプではないので(笑)、最初に子育てを妻と一緒にやらないと、任せきりになってしまうのでは…との懸念もあり、育休を取得しました。周りに育休を取っている同期も多く、現在の部署にも取得の前例がありました。週に1度みんなでランチに行くほど風通しのよい職場でもあったので、「育休を取ります」と言いにくい雰囲気は全くありませんでした。

手のかかる子どもだからこそ

粉ミルクを飲んでくれない子だったので、妻は息子につきっきり。他の家事・育児はほぼ私が行う…という感じで、2018年8月、3週間の育休期間を過ごしました。家事・育児は大変だ、ということに改めて感じ、仕事に対する考え方も、「今まで以上に優先順位をつけ、効率的に行い、早く帰ろう!」というように変化しました。息子をお風呂に入れるのは、今でも私の日課です。

妻からの報告が楽しみ

育休を取って一番良かったと思うのは、子育ての最初の時期を一緒に過ごしたことで、帰宅後に妻が子どもの様子を報告してくれるのを、楽しいと思うことができることです。自分が立ち会えなかった場面も、ある程度想像が出来るので、成長の喜びを夫婦で分かち合うことができます。ぜひ育休を利用して、家庭と仕事を両立してください!

イクボスからの一言!



主計部 連結IR課 課長 小田 克さん

私自身も育休を取得した経験があるので、部下にも自分から「育休取得したら?」と話しかけるなど、雰囲気づくりに努めています。猿田さんは育休後、今まで以上に時間管理に注意を払い、精力的に業務をこなしてくれています。



イクメン vol.3

都市創造本部 開発事業部 事業統括部 総括課
課長 長谷信之さん



PROFILE

1999年入社。都市創造本部、経営企画室、復興庁派遣を経て、現在は都市・開発事業部の総括業務を担当。
3歳の女の子と、0歳の男の子、2人のお父さん。

育児・家事は夫婦が一緒にやること

第一子・第二子出産後、それぞれ3週間ずつ取得しました。2回目の取得は2018年7月から。義理の母が出産後来てくれていたのですが、1か月後に帰られたので、そのタイミングに合わせて取得しました。育児・家事は夫婦が一緒にやるものですし、妻は子どもと1日中過ごすだけでも大変なので、自分が一緒に居るだけでも少しは力になれるかなと。掃除・洗濯、上の子のケアなど、できる限りの家事・育児を行いました。

“イクママ”という言葉はない

“イクメン”という言葉がありますが、育休を取ったからといって“イクメン”というわけではないと思います。また、育児をしている女性を“イクママ”と呼ぶこともないわけで…。育休取得自体はゴールではなく、あくまでも男性が育児に参加する最初のきっかけです。育休中だけでなく、夫婦が一緒に子育てをしていくことが、本来の姿だと考えています。

育休取得は自然、当然

都市創造本部では、育休を自然に、当然のように取得する流れができてきました。こちらから言わなくても、「育休とらないの?」と上司に言われます。私自身も、業務が立て込んでいた中で取得でしたが、上司に快諾していただいたことが心の支えになりました。自分自身も、チーム内のメンバーが抱える家庭の事情などには、極力配慮しようと心掛けています。

イクボスからの一言!



開発事業部 事業統括部 統括部長 鈴置 一哉さん

長谷さんの育休中、一時的に業務負荷は上がりましたが、「より効率的に」とメンバー皆で考え、乗り切りました。現在も管理職として、部下に残業はできるだけさせない、可能な限り個々人の都合や価値観に応じた仕事のやり方を選択させるなど、意識しています。



本誌面の情報は、2018年10月現在のものです

イクメン座談会

～育休取ってみた!～

同じ「育休」といっても、取得の理由やその過ごし方はさまざま。

隣の部署のイクメン事情、気になりますか？

今回は異なる部署で活躍している4人のイクメンたちに、
育休の極意を語っていただきました。



鉄道事業本部 事業推進部
プロジェクトチーム
課長補佐

阿部穂嵩さん

2006年入社。
ザ・ロイヤルエクスプレス事業を担当。
2・0歳、女2人姉妹のお父さん。



都市創造本部
渋谷戦略事業部 開発一部
施設計画課 課長

西田正志さん

1999年入社。
渋谷スクランブルスクエアを担当。
3歳と1歳、2人の男兄弟のお父さん。



リテール事業部
東急ベル・EC推進部
EC推進課 課長補佐

福田育弘さん

2009年入社。
東急ベル事業を担当。
0歳の男の子のお父さん。



鉄道事業本部 運転車両部
元住吉電車区
運転士

松下裕玲さん

2009年入社。東横線の運転士。
8歳の女の子、6歳の男の子、
1歳の女の子のお父さん。

育休取得した理由は？

福田：産まれて間もない時期しか本当の“赤ちゃん”と一緒に居られる機会はないよ、とまわりに勧められて、1ヶ月取得しました。いずれ妻が復職したら共働きになるので、育児スキルのアップも必要かと。

西田：うちでは妻が里帰りをしなかったので、必要に迫られて、1人目と2人目出産後に、それぞれ2週間ずつ取得しました。

阿部：私も里帰りしない妻と一緒に子育てをするため、同じく1ヶ月ずつ、出産に合わせる形で取得しました。自分が取得することで、周りに勧められたら良いな、という思いもありました。

松下：3人目が生まれたときに、1ヶ月取得しました。出産が夏休み時期と重ならず、1番上の子の通学もある中、妻1人ですべて背負うのは、大変だと思ひまして。



育休中の過ごし方は？

阿部：授乳以外の家事は、ほぼ全てやっていました。最初の3週間くらいは家の中で主に育児をしていて、外に出られるようになってからは、子どもを連れてお出掛けしたりしました。

松下：3人目の時の取得だったので、上の子2人と一緒に、家事をしたりしていました。一緒に洗濯をして、「服を裏返しで出さないように!」と教えておけば、自分の育休が終わった後、妻も楽ですね。あとは、釣りに行ったり、プールに行ったり、家族と過ごす時間も大切にしました。

西田：1人目の時は一緒に育児・家事をしていましたが、2人目の時は、赤ちゃん返りする1人目の相手でした。仕事は一切しませんでしたね。そしたら、パソコンを見ていないせいか、肩こりもなくなりました(笑)

福田：初めての子どもだったので、基本的な育児は一通りやりました。お風呂に入れたり、ミルクを飲ませたり、寝かしつけたり…それ以外にも、子どもを病院へ連れて行ったり、保育園を見に行ったりする「保活」もしました。

新たな気づきや、心境の変化は？

松下：鉄道は安心・安全が第一なので、雑念を持たずに運転することが大事です。新生児のうちは、ちょっとした風邪が命に関わるので心配しがち。育児に集中できる「育休」という制度があってよかったと思いました。

福田：効率よく仕事をしよう意識するようになりました。以前は残業が多かったのですが、現在はほぼノー残業です。早めに帰って夕飯の準備をするのが、私の役目ですから。

西田：子ども生まれるまでは共働きで、「妻も自分も終電で帰る」みたいに、「仕事」が優先で、互いの生活リズムがそろっていたのですが、子どもが生まれて、平日・土日の過ごし方が一変しました。仕事と同じくらいの優先順位で、「家庭」を考えるようになり、同時に周りの部下が抱えている家庭や育児の悩みも、理解できるようになりました。

阿部：私も、同じ状況の仲間に対して、配慮ができるようになりましたね。平日と休日で、オンとオフの切り替えもはっきりしました。余談ですが、両親に1ヶ月育休を取ると伝えたら、「大丈夫なの？」と心配されたのには驚きました。まだ育休に対する世間の理解も進んでいないという印象を受けます。



復職後のエピソードはありますか？

阿部：保育園の送り迎えにスライド勤務を活用しています。8時半に子どもを保育園に送ってから、9時半に出社するのはなかなか厳しいので、10時出社にしたり。

西田：送り迎えは大変ですよ。どちらか迎えに行くか、妻といつもやりとりをしていました。幸いなことに、部内の理解が進んでおり、例えば「子どもが熱を出したので在宅勤務します。」とか「この会議は明日に回そう。」とか、互いに融通を効かせながら仕事を進められる環境が整っています。

松下：「育休取ってどうだった？」と周りからよく聞かれるようになり、みんな興味を持っていることを実感しました。同僚の目を気にして取らないのはもったいないと思います。

福田：上司が、「福田さんに属人化していた業務が、育休取得により共有され、チーム全体の成長に繋がったよ。」と言ってくれました。不在の間、チームに迷惑を掛けるかと思っていたのですが、思いがけないコメントをもらえてありがたかったです。

育休を取ろうとしている方にメッセージをどうぞ。

阿部：新生児から乳児になる期間は、その時だけです。大体の取得の時期が分かり次第、早めに上司や同僚に話しておけば、職場の業務調整などもうまくいくと思います。ぜひ取得して家族の思い出を増やしてください！

福田：家族と向き合う時間を取ることで、その先の人生すべてが変わっていくと思います。ぜひ育休を1ヶ月以上取って、ゆっくり、思いっきり、子どもと向き合う時間を作ってください！

松下：子どもは日々成長するので、1日1日が大切です。育休を取るのが当たり前になれば、取得する人は増えていくはず。後に続く後輩のために、育休を取って、道を切り拓いてください！

西田：育休はただの休みではなく、もちろん大変なことも多いです。ただ、取って後悔することは絶対ないと思います。ぜひ気兼ねなく、自分の思いを上司に伝えてみてくださいね！

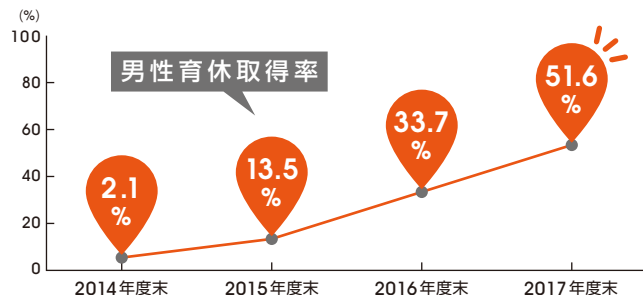


COLUMN

東急電鉄の男性育休取得率の推移

当社の男性育休取得率は、近年急増しています。2014年度は2.1%だったのが、2017年度には51.6%（平均取得日数18日）になりました！

育休取得を検討中のみならず、ぜひ取得して、家庭でも、仕事でも、持てる力を最大限に発揮してくださいね！



※育休取得率算出方法（育休取得者／当該年度に育休の取得期限を迎える対象者）×100
※政府取得目標…2020年までに13%

